

平成 22 年度第 10 回（94 回）

清瀬市まちづくり委員会議事要旨

日 時：平成 23 年 4 月 19 日（火）午後 2 時～4 時

場 所：コミュニティプラザひまわり 会議室 1

出席者：大森靖史、伊藤晃、三木克子、佐藤隆史、小林倫子、宮城敬子、中西宣長、増田恵美子、島崎豊茂、阿久津たか子、大久保實、佐藤勝栄、今瀬千佳子、鈴木晃、齋藤徳次郎、神吉正代

事務局：企画部長、市民協働係長、企画課主事

欠席者：加藤春芳、石川由紀子、原友里恵、円城寺修

<配布資料>

- 1 平成 22 年度第 10 回（第 94 回）清瀬市まちづくり委員会次第
- 2 平成 22 年度第 9 回（第 93 回）清瀬市まちづくり委員会議事要旨
- 3 まちづくり委員会からの提言（提案 No21 - 9 まちづくりリーダー制の導入と育成を）
- 4 まちづくりフォーラムチラシ案①～④
- 5 まちづくり提案審議 進行表
- 6 自治会等実施調査結果報告書
- 7 円卓会議から地域コミュニティづくりへ
- 8 リーダー発掘・リーダー制へと導く具体案
- 9 まちを美しくする条例の活性化 フォーラム発表骨子

1 開 会

2 前回の確認

委員長：前回議事について何か意見はあるか。

<特になし、前回議事承認>

3 「まちづくりリーダー制の導入と育成を」に関する提言について

委員長：提言をあげるにあたり、今回は具体的に審議すべきであるので、本日は具体的に話し合っていきたい。委員がフォーラムの資料をまとめるにあたっての資料を作成したので報告をお願いしたい。

＜委員により配布資料7及び8で以下の事を報告した。＞

- ・行政主導の「円卓会議」のみでは、「会議に自由に参加して、多くの問題提起をしてもらう」のは有効であるかもしれないが、市民の自発的な地域への取組みのためのつながりを生み、市民同士が共に活動するような関係性や実行性にまでなかなか至らない事が見えてきた。
- ・円卓会議から提案され、実施された活動を通して重要だと思われたことは「様々な分野の人と市民同士のつながり」である。これにより、地域住民が主体となるコミュニティ作りは、各分野のキーパーソンを生み出す原動力となり、また更なる人材発掘につながるものとして積極的に進めるべきである。

委員長：リーダー制の導入にあたって市民が具体的にイメージしやすいか、それに対して行政がどう動けばよいのかが求められる。先ほど報告してもらった資料が具体的な案として提言文にあげられるのではないかと皆で審議してもらいたい。

委員：この委員会では内容的に細かい点まで決めるのではなく、おおまかな骨組みを組み、専門的な方々に色々なことをつけ加えてやっていくべきだと考えている。この委員会の意見としてまとめあげるのではなく、もう少し大きな位置付けで議論する場ではないのか。
円卓会議をやるにしても、各地域がバラバラならまとまらない。市の方で土俵は作っているが、後の具体的に進める手立ても何もないのなら円卓会議が進まないのである。よってこの委員会で欠点をまとめあげる提言をするのが本題ではないのか。

委員：結局は行政がバックアップをしなくてはならないと思う。

委員：住民主催で円卓会議一個一個を市がまとめあげる。円卓会議をどうすればうまく出来るか、資料7を見てこの場で話し合うのが今ではないのか。

委員：震災があってから住民の意識が変わり始め、防災の面でも円卓会議を活性化すれば、資料7のようにリーダーを育てるので良いのではないのか。

委員：実際方向性が定まっていないので、今議論すべきことは何かを考えるべきではないか。

委員：六小と七小での円卓会議が素晴らしいので円卓会議を全市内に普及すべきだと思う。

委員：私はなお一層の促進で考えている。まず円卓会議そのものを推進すべきだということをこの委員会の意見としていくのが良いと思う。

委員：今の発言は前回の総意である。リーダーを作るのは大切であると思う。市の方ではリーダーを急いで設置しなくてはならないのか。

事務局：人口が減り、税収が減っている。地域の事はなるべく地域で行ってもらいたいと考えている。それには地域のコミュニティが必要であり、リーダーとなる人がいないと色々な事がうまく進まないと感じており、リーダーとなる人がいる方が会議がうまく進むと考えている。

委員：1段階として各地域にコミュニティを作るべきである。2段階として同時に出来ないのを先行しているところにリーダーを設置し、それを見本に他のコミュニティにもリーダーを設置していくことでいいのか。

委員：地域性によって同じように括れない部分がたくさんある。これをひとつのコミュニティにしようとしているわけなので、清瀬市の大きな将来像を提言していったらどうか。

委員：円卓会議は地域のリーダーを育てているのを感じた。

事務局：色々な課題を解決していくためにリーダーの育成を感じている。円卓会議をわけて考えていくと、今地域のコミュニティが希薄であり、昨今の震災の際に地域のつながりが大切であり、市としては地域の関係を醸成していくのが始まりである。六小や七小の経験からすると、円卓会議にリーダーを早く設置することにより、円滑に会議が成功する方法だと思う。この提言についてはまちづくりの基本的なところであり、リーダーを置くのが必要であり、難しいところでもある。本日の会議については具体的な提言を話し合ってもらいたい。

委員：防災に関して各地域にテーマを投げかけるのはどうか。

委員：消防団や交通安全協会の方をリーダーとして地域の人に認知してもらい、その手段として円卓会議を使ったらどうか。それによってリーダーを作っていける場であればそれはそれで良いのではないか。リーダーを発掘や育成等ではなく、リーダーを認知するという事はどうか。

委員：消防団では不適格であると思う。

委員：消防団や交通安全協会の方はリーダーにはあり得ないと思うか。

委員：消防団等で若いリーダー等は向かないと考える。

委員：若い消防団ではなく地域には消防団がいるはずなのでその人達はどうかという意味で意見を述べたのである。

委員：昨今の震災のタイミングもあり、是非フォーラムには取り上げたい。

委員：第一段階「円卓会議開催の普及」第二段階で「地域のコミュニティを広げていく」その中で色々な組織で活動している方に声をかけて会議に参加してもらおう。その中で発掘していければよいのではないか。

事務局：提言について、委員長と事務局でとりまとめしてもよろしいか。

<了承>

4まちづくりフォーラムの内容について

委員長：「まちづくりリーダー制の導入と育成」を発表する際、一例として六小や七小の案を出すのでよろしいか。

<了承>

委員長：チラシのタイトルはサブタイトルとして「まちづくりリーダー制の導入と育成」を使い、内容の文書についてはどの案が良いか。

委員：フォーラムでは現在の状況（ゴミの不法投棄や自然が破壊されている様子）を掲げ、時間があるのなら清瀬の美しい自然の写真を載せ「私達の手で守っていく」形で表現していきたい。

<配布資料4案①～④を吟味し、多数決により案②に決定した。>

4 その他

事務局：まちづくりフォーラムのチラシについては市のHP、市報5月1日号及び市内公共施設に掲示させてもらった。また、まちづくり委員の来月任期終了に伴い、新たに公募の募集をホームページ及び市報に掲載したので委員の中からも周りに声かけを願いたい。

次回会議は5月10日（火）中清戸センター多目的ホールにて14時より開催する。